国際北極科学委員会

International Arctic Science Committee (IASC)

概要

2024年11月

日本学術会議地球惑星科学委員会

地球惑星科学国際連携分科会IASC小委員会

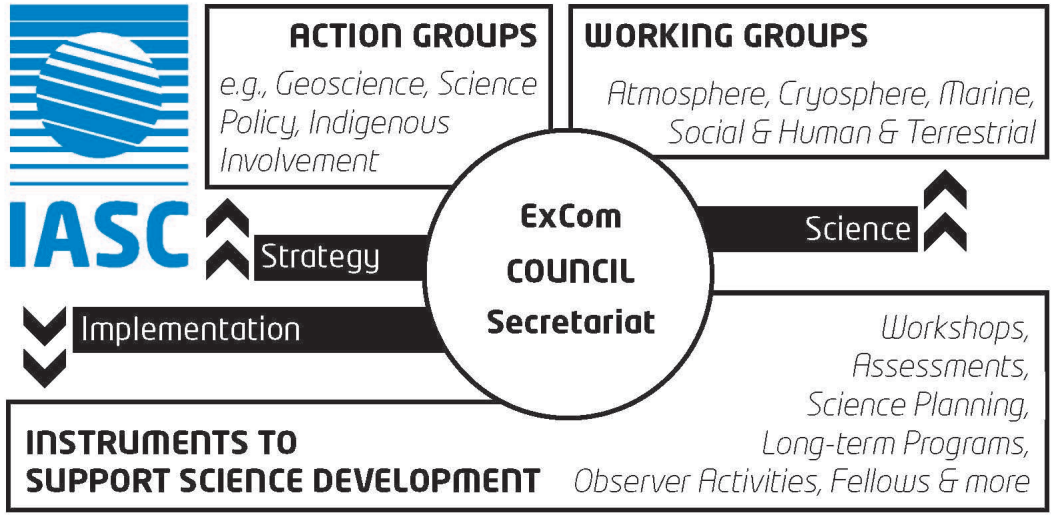
IASCの設立の経緯と目的

- 1990年設立。北極圏に領土を持つ8カ国により設立が呼びかけられた。そして、北極圏外の国の参加を得て14か国により1991年に最初の公式会合が開かれた。日本もこの会合から参加している。
- 北極域に領土を持つ地域と北極研究に従事している国々により、北極域および全球的な科学研究の強力な研究推進体制を目的としている。
- 各国からの分担金によって活動しており、科学的なアドバイスや科学の進展に対して援助も行っている。また、自然科学だけでなく北極研究に関するすべての分野を網羅している。

IASCの活動指針

- 北極圏と地球システムにおける役割について、より深い科学的理解を促進するために最先端の学際的研究を推進する。
- 人間と環境の境界を埋める活動を行う。
- 伝統的知識、先住民の知識、および科学的知識は、同等で補完的な知識システムであると捉え、これらすべてから情報を得る。

国際北極科学委員会（IASC）の活動



IASC の活動体制

ExComm、事務局,
評議会：参加国24 (北極圏８， 北極圏外16)　Standing Committee, Working Group, Action Group
総会：毎年開催、北極観測サミット（AOS）と科学シンポジウムを隔年開催。長期計画検討活動(ICARP)を10年に一度実施。2022年よりICARP IV検討。

Working Group (WG)

大気、雪氷、海洋、自分社会、陸域のワーキンググループおよびクロスカッティングの活動

Standing Committee on Indigenous Involvement (SCII)

先住民との協働を目指し、活動の検討とExCommとの協議やAGへの実施の提言

Action Group (AG)

- ✓ 2022-23: IASC Strategic Plan AG
- ✓ 2020-22: Carbon Footprint AG
- ✓ 2017-20: AG on Indigenous Involvement
- ✓ 2018-20: Bylaws AG
- ✓ 2017-19: Arctic Science and Business/Industry Cooperation
- ✓ 2017-18: Communicating Arctic Science to Policymakers
- ✓ 2012-13: AG on Geosciences
- ✓ 2012-13: Data Policy AG
- ✓ 2008-12: SCAR/IASC Bipolar AG

日本の科学者によるIASCへの貢献

緊急課題　北極の自然科学と人文社会科学の課題を議論。科学が持続可能な北極を実現。（科学主導）

科学活動　北極圏外の国の活動として日本を含む中緯度、グローバル影響の研究。高精度、長期の観測や調査の実施（信頼性）

国際協力　観測基地、研究船、衛星による観測活動を通じた国際モニタリングネットワーク。国際的なデータ共有への参画。国際会議の開催。

日本学術会議を通じたIASCへの貢献。日本のIASC加盟から30年、ASSW/IASCへの日本の長年の協力は、国際的な北極研究推進の主要メンバーとして海外の研究コミュニティーからの信頼を受けている。

2015年富山にてASSW開催(日本学術会議共同主催）（IASC25周年、ICARP III、科学シンポジウム同時開催）。ASSW2027の函館開催が決定。

ASSW 2015 Toyama
Arctic Science Summit Week

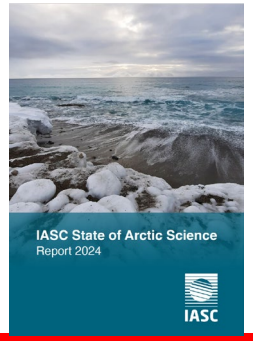
TOYAMA CONFERENCE STATEMENT
ASSW2015共同声明

「北極圏研究の統合—未来へのロードマップ」

IASCの将来展望

北極研究計画ロードマップ(ICARP IIIからIV)

IASCは北極圏研究計画に関する国際会議（ICARP）を開催し、10年ごとに将来計画の提案を行っている。ICARP IIIでは「**北極圏研究の統合—未来へのロードマップ**」をまとめた。**ICARP IV(2025)策定中。**



IASC 2024年 北極科学の現状レポート

ICARP IIIで策定した優先課題の実現に向けて

北極研究の緊急課題を確認

- 北極の気候結合システムの理解する。
- 様々な汚染に関して起源と集積の状況を把握し環境や社会への影響を明らかにする。
- 北極での観測・予報・予測および予測可能性
- 社会要請に応える北極研究を推進

北極科学大臣会合(ASM）への協力。第3回は2021年5月8、9日に東京にて開催。

International Polar Year (IPY) 2032-33に向けて2024年10月コンセプトノート更新